

長岡京市小中学校でのICT整備・活用について

令和5年8月 長岡京市教育委員会

1 GIGAスクール構想とは？



「児童生徒向けの1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化された学びと創造性を育む教育を、学校現場で持続的に実現させる構想」です。これまでの教育実践と最先端のICTのベストミックスを図ることで、教師・児童生徒の力を最大限に引き出すことを目指します。



文部科学省「GIGAスクール構想の実現へ」より

2 児童生徒に身につけさせたい情報活用能力とは？

ICT環境の整備は手段であり、目的ではありません。学習活動において必要に応じてコンピュータ等の情報手段を適切に用いて情報を得たり、情報を整理・比較したり、得られた情報を分かりやすく発信・伝達したり、必要に応じて保存・共有したりといったことができる「学習の基盤となる力」の習得を目指します。

3 タブレット活用について

タブレットは、鉛筆やノート等と同様の学ぶためのツールになります。学校では、タブレットを活用した授業を進め、児童生徒の学びをさらに充実させていきます。



<裏面に続きます>

<タブレットを活用した授業のイメージ>

	「1人1台端末」ではない環境	「1人1台端末」の環境
一斉学習	<ul style="list-style-type: none"> 教師が電子黒板等を用いて説明し、子供たちの興味関心意欲を高めることはできる 	<ul style="list-style-type: none"> 教師は授業中でも一人一人の反応を把握できる → 子供たち一人一人の反応を踏まえたきめ細かな指導等、双方向型の授業展開が可能に
個別学習	<ul style="list-style-type: none"> 全員が同時に同じ内容を学習する（一人一人の理解度等に応じた学びは困難） 	<ul style="list-style-type: none"> 各人が同時に別々の内容を学習できる 各人の学習履歴が自動的に記録される → 一人一人の教育的ニーズ・理解度に応じた個別学習や個に応じた指導が可能に
協働学習	<ul style="list-style-type: none"> グループ発表ならば可能だが、自分独自の意見は発信しにくい（積極的な子はいつも発表するが、控えめな子は「お客さん」に） 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人が記事や動画等を集め、独自の視点で情報を編集できる 各自の考えを即時に共有し、共同編集ができる → 全ての子供が情報の編集を経験しつつ、多様な意見にも即時に触れられる

4 タブレット活用段階（長岡京市）

- ステップ1** 「すぐにも」「どの教科でも」「誰にでも」活かせる
 例) インターネットに必要な情報の収集・整理、文書作成ソフトの利用
- ステップ2** 教科の学びを深める、教科の学びの本質に迫る
 例) 理科で観察実験時に動画撮影し振り返りや分析の共有
 社会科で各自収集したデータを持ち寄り、グループで重ね合わせ分析
- ステップ3** 教科の学びをつなぐ、社会課題の解決や一人一人の夢の実現に活かす
 例) 教科横断的、探究的な活動にICTを活用

長岡京市では、令和4年度はステップ2に取り組んできました。
令和5年度はステップ3を目指し、取り組んでいます。



5 本市におけるICT整備の概要

- ・児童生徒に1人1台タブレットを貸与（iPad ※Office365インストール済）
- ・校内無線Wi-Fi整備、高速インターネット回線の整備（長四小はLTE回線を使用）
- ・教室に保管庫〔電源キャビネット〕を配置

令和5年度も引き続き活用を進めています。家庭への持ち帰りもしますので、タブレットの取り扱いにはご留意いただきますようよろしくお願いいたします。

